

令和3年第6回教育委員会会議

1 日 時

令和3年4月23日（金）

開会 10時

閉会 10時55分

2 場 所

県庁行政庁舎 11階 1109会議室

3 出席者

徳田博教育長、新屋長二郎委員、新家久司委員、眞鍋知子委員、高野勝委員、浅蔵一華委員

4 説明のため出席した職員

飯田重則教育次長、杉中達夫教育次長、塩田憲司教育次長、松田豊久教育次長兼庶務課長、江尻祐子教育次長兼学校指導課長、岡橋勇侍教職員課長、清水茂生涯学習課長、山下幸則文化財課長、居村吉記保健体育課長

5 議案件名及び採決の結果

議案第11号 令和4年度使用教科書の採択方針について（原案可決）

議案第12号 石川県公立学校教職員健康管理審査会委員の委嘱（任命）について（原案可決）

議案第13号 人事異動について（原案可決）

6 報告事項

報告第1号 令和4年度石川県公立学校教員採用候補者選考試験等の実施について

報告第2号 令和3年度石川県立金沢錦丘中学校及び石川県立高等学校における入学者選抜結果について

報告第3号 令和2年度全国高等学校選抜大会等における本県選手団の成績について

7 審議の概要

・開会宣告

徳田教育長が開会を告げる。

・会議の公開・非公開の決定

議案第11号は教科書採択に関する案件のため、議案第12号及び議案第13号は人事案件のため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項に基づき非公開とすることを、全会一致で決定。

・質疑要旨

以下のとおり。

報告第1号 令和4年度石川県公立学校教員採用候補者選考試験等の実施について
(岡橋教職員課長説明)

まず「1 石川県公立学校教員採用候補者選考試験」についてであります。「(1) 試験期日等」につきましては、出願受け付けは5月6～27日、7月17日、18日に筆記および実技試験、7月31日、または8月1日に面接試験(模擬授業・個人面接)を行います。10月8日に結果の発表通知を行うこととしています。「(2) 受験区分・募集教科」につきましては、記載のとおりであります。今年度は、4年ぶりに田鶴浜高校の看護の教員の募集を行います。

「(3) の見込み数」につきましては、5月1日の児童・生徒数の確定等を踏まえ決定し、5月中旬ごろに発表することとしています。「(4) 受験資格」につきましては、これまでどおり50歳未満としています。「(5) 選考区分」につきましては、一般選考と六つの特別選考を設け、太字で記載してある特別選考部分VとVIが昨年度との変更箇所であります。具体的には、「(6) 前年度との主な変更点」の箇所をご覧ください。まず特別選考部分Vに関してですが、教科「工業」は、近年受験者が少ないことや、工業科教員の再任用を含め、年齢が55歳以上の教員の割合が高いことから、今後のベテラン職員の退職に備え、即戦力となる優秀な教員を確保していくことが求められています。

そのため、平成30年度選考試験から、一般選考に加え、民間企業等勤務経験を有する受験者を対象とした選考を実施しているところであり、民間企業等で正規職員として3年以上の勤務経験がある者を対象に、試験のうち筆記試験における総合教養を免除しています。今般、こうした取組に加え新たな取組として、新卒の優秀な学生を対象に、石川県教育委員会が指定する大学、具体的には教科「工業」の免許を取得することができる金沢大学または金沢工業大学の学生で、大学の推薦を受けた受験者に対しての特別選考区分を設け、試験のうち筆記試験および実技試験を免除することとしています。また、特別選考区分VIに関しては、先ほど申し上げたように4年ぶりに実施するものであり、教育職員普通免許状(看護)を有しないが、看護師免許証を有し看護師、保健師または助産師として3年以上の勤務経験を有する受験者に対し、試験のうち筆記試験の総合教養を免除することとしています。

8ページをご覧ください。8ページの上段の2栄養教諭の選考試験および下段の3栄養教諭の特別選考試験につきましては、いずれも小中学校において食の指導や給食の管理・運営に携わる栄養教諭の採用を行うものであります。上段の選考試験は、栄養教諭を採用するもので、令和元年度より実施しており、また下段の特別選考試験は現職の学校栄養職員のうち、栄養教諭の免許状を持つ者の中から栄養教諭への任用替えを行うものであります。任用替えは、栄養教諭の制度ができたことを受け、平成18年度より実施しているものであり、現在任用替えが進み、対象となる学校栄養職員が少なくなっているものの、当面の間、栄養教諭への任用替え試験も引き続き実施することとしています。これらの栄養教諭の試験も、7ページの教員採用候補者選考試験と同日に実施することとしています。

なお、本県教員を目指す多くの方々に受験していただきたいと考えており、例年実施している大学訪問につきましては、昨年の春は新型コロナウイルス感染症の拡大により実施できませんでしたが、昨年秋には主に大学3年生を対象として県内外21大学

において説明会を実施したところです。今年の春は、本日より県内大学を中心に大学訪問を行っています。教員のやりがいや充実した研修制度、石川県の教育力、石川県の住みよさについてアピールしてまいりたいと考えています。

加えて、多くの大学生が登録しているいしかわ就職・定住サポートセンターを通じて情報のメール配信や、県ホームページで石川の教育をアピールする動画をインターネット配信するとともに、ラジオ放送で教員のやりがい・魅力について紹介することなどにより、多くの学生に本県の教育や教職の魅力を伝え、優秀な人材の確保につなげていきたいと考えています。

また、現在いしかわ師範塾においては、石川県の教員を目指して受験予定の第8期生となる大学4年生と大学院2年生が、豊富な経験を持つ指導員のもと、実践的な力を身に付けるべく、教員の心構えを学んでいるところです。なお、選考に当たりますには、筆記試験、実技試験および模擬授業と個人面接を通して、教員として豊かな教養と専門的知識を有することに加え、児童・生徒に対する教育的愛情を持ち、健康でたくましく、指導力・実践力のある人材を採用したいと考えています。

【質疑】

(新屋委員)

工業の大学推薦について、今回は二つの大学ですが、これは拡大する方向はあるのでしょうか。また、この推薦というのは、大学から何人でも出していただくという形の推薦でしょうか。それとも、枠を決めてお願いするものでしょうか。

(岡橋教職員課長)

拡大については、今回が初年度でありますので、初年度の状況を踏まえまして検討していく予定でございます。

上限についてですが、各大学若干名ということで考えています。

(新家委員)

この報告については、これでよろしいかなと思っています。ただ、来年以降の採用試験についての提案で、ご検討いただきたいなと思うことがあり、私の会社もそうで、別に不祥事があったというわけでもないのですが、採用した社員が早くに辞めたりすることがあります。採用試験はいい成績で、面接もして採用するのですが、その後いろいろな問題が出てくる方もやはりいるのです。

今年から、適性検査や性格検査を実施して、この前も、成績は優秀なのだけでも適性の方でちょっと問題ありということで採用を控えた学生がいます。これが公務員の方の採用、特に教職員の方の採用試験に適切なのかどうかというのは、プライバシーの問題もありますので、適切かどうかというのは分かりませんが、ペーパー試験と面接ではなかなか分からない部分がありますので、予算も伴いますから、来年度以降ご検討いただければという提案です。

(杉中教育次長)

今、委員からお話がありました件についてですが、本県においても教員採用試験において適性検査を既に実施しています。このような適性検査を行っているという県で

ありますが、他県を調べてみますと約40県でも同じように実施しているというところ
であります。筆記試験、実技試験、面接試験に加えましてこういう適性検査を実施し
ているところでもあります。客観的かつ科学的にその人の性格的特徴を捉えるという検
査で、120問の質問に対して、はい、いいえ、分からない、どちらともいえないとい
うことで答えるもので、約15分の試験です。

そういうものによって合否を判定するというよりも、それを見て本人の特徴を見た
上で、面接のときにより深く聞き取ったり、参考にさせていただいているというこ
とで、今後ともそういったものも活かして、しっかり人間を見ていきたいと思ってい
ます。

(新家委員)

やっておられるというのには知らず、失礼しました。当社は導入するに当たって、本
屋に行っているいろいろ調べたら、種類がいっぱいあるのですね。今のやっておられ
ることを否定するわけでもなくて、いろいろな適性検査がありますので、今のやって
いることがいいのかどうかということも含めて、ご検討いただければと思います。

(高野委員)

新屋委員の質問に関連してですが、ここにある選考のVとVIというのは、本当に大
きな改正点かなと思います。これは人数が足りないので今年だけ臨時にやるというこ
とではなくて、このVとVIを継続的に選考していくということですよ。

(岡橋教職員課長)

選考区分Vについては、各大学の優秀な即戦力を採用していきたいということ
です。今年度始まりましたが、もちろん今後、状況も注視していきながら継続して
いく予定です。

(眞鍋委員)

今年度、工業の免許を取得予定の受験生が、対象となる学生が各大学に何人ぐら
いおられるか把握されているかということと、今後も継続されるということであ
れば、1年生の入学した後すぐからやはり教員免許を取得するような働き掛けとい
うのが必要ですので、そうしたことの広報や宣伝もしていただきたいと思ってい
ますので、その点についてお願いいたします。

(岡橋教職員課長)

各大学でどれぐらいの人数の工業の免許を取得しているかについては、今、手元
にございません。なお、大学1年生にこういった免許状をしっかりと取ってくださ
いといったようなアピールについては、各大学訪問をした際に、担当の方はもち
ろん、新入生の方々に対してアピールしていきたいと思っております。

(杉中教育次長)

工業の教員、本県のものづくりを思ったときに、優秀な子どもたちを指導していただける教員を確保していくということは、ここ数年来ずっと課題としていまして、第1弾として、民間で働いている方で、教員にも大変興味がおありの方には、経験を生かして即戦力となるご指導をしていただける教員に入っていただきたいというのが、平成30年からやってきた試験であります。今回、大学でしっかり勉強して教員を目指したいという方も工業の学部の中にいらっしゃると聞きましたので、こういった制度を設けて、早いうちから工業教員を目指す道があるのだということを、学生さんにもきちんと示していくことが、今後のアピールにもなるのではないかとということで、ふたを開いてみないと分からない部分はあるのですが、今後、委員のおっしゃったように、1年生など、教職をとる時期の学生にしっかりと働きかけをして、少しでも目を向けていただくということが続けることが大事だと思っています。

(岡橋教職員課長)

先ほどの人数ですが、令和2年度の金沢大学と金沢工業大学の工業の免許状の取得者では、金沢工業大学においては35名、金沢大学においては3名という現状になっています。

報告第2号 令和3年度石川県立金沢錦丘中学校及び石川県公立高等学校における入学者選抜結果について（江尻教育次長兼学校指導課長説明）

初めに、「1 石川県立金沢錦丘中学校入学者選抜結果について」であります。適性検査は、令和3年1月24日に実施いたしました。選抜方法につきましては、(2)にお示ししましたように、小学校長から提出されました調査書ならびに、主に言語に関する力を見る総合適性検査Ⅰ、自然や社会、数理に関する力を見る総合適性検査Ⅱ、そして面接の結果を総合的に判定しまして、入学者の選抜を行いました。

「(3) 選抜結果」ですが、①に示しましたように、募集定員120人に対しまして215人が受検し、うち120人が合格しております。受検倍率は1.79倍でした。「②合格者の郡市別内訳」ですが、金沢市が77人と最も多く、次いで白山市・野々市市が29人、この三つの市で合計106人となっており、全体に占める割合は88%で、これまでとほぼ同様の傾向となっております。

次に、資料10ページをご覧ください。「2 石川県公立高等学校入学者選抜結果について」、ご報告いたします。学力検査等の期日につきましては、(1)にお示ししたとおりであります。

「(2) 選抜結果」であります。①公立高等学校（全日制）につきましては、募集定員7,360人に対し、推薦入学等で629人、一般入学で5,803人、合わせまして6,432人が合格いたしました。なお、欄外にあります追検査等につきましては、受検者はありませんでした。②の定時制につきましては、募集定員480人に対しまして、163人が合格しています。③の通信制につきましては、募集定員240人に対しまして、43人が合格しています。各学校別合格者数の状況につきましては、11～12ページにかけて全日制、13ページに定時制、そして通信制を掲載してございます。

最後に、14ページの(4) 全日制的得点状況をご覧ください。今年度の結果につきまして、「①教科別平均点」でございますが、全教科の平均点が前年度を上回り、5教科合計は前年度より26点高い254点となっております。②にお示ししましたが、5教科合計の得点分布が、昨年と比べまして200点以上の各段階において割合が増えておりまして、全体の分布を見ますと受検生の学力を適切に測ることができる検査であったというふうに考えています。

令和4年度、今度の学力検査におきましても、課題を解決するために必要な活用力と、中学校における授業の中で身に付けるべき学力の方向性を示すとともに、小学校・中学校で学んだ力を的確に把握できるような出題を目指しまして、石川県高等学校入学者選抜が円滑かつ適切に行われるよう努めてまいりたいと思っております。以上です。

【質疑】

(新屋委員)

11ページから公立高校の入学者の数が出ていますが、定員が未充足の学校が幾つかあり、特に能登が厳しいです。前から続いていると思うのですが、中でも志賀高校、穴水高校、門前高校について、統廃合ということではなく、こういった小規模校は今後も厳しい状況が続くと思うのですが、それに対して方策、ビジョンは何か考えておられるのでしょうか。

(江尻教育次長兼学校指導課長)

実際には、能登地域は子どもの数がだいぶ減っています。しかしながら、月並みですが、学校の魅力、こんなことが学べてとても良いというところをもっとPRしていくということが大事であると思いますし、今ほど県北をおっしゃいましたが、県南も含めて、倍率が低く出ているところの学校には、各学校長が分析等をしていますので、地域の声、保護者の声をお聞きした校長先生のお話を伺って一緒に考えてまいりたいと思っています。

報告第3号 令和2年度全国高等学校選抜大会等における本県選手団の成績について
(居村保健体育課長説明)

令和2年度全国高等学校選抜大会等につきましては、東京都をはじめ、23都道府県におきまして、令和2年12月23日から令和3年4月18日までの期間で競技ごとに開催されまして、本県より26競技に選手416名が参加いたしました。

成績につきましては、上段にあります団体においては、相撲で金沢学院高校、少林寺拳法男子で小松工業高校が優勝、卓球男子で遊学館高校、空手道女子で小松大谷高校が3位、バレーボール男子で県立工業高校、ソフトテニス男子で能登高校、バドミントン男子で金沢市立工業高校が5位に入賞する活躍が見られました。

中ほどにございます個人におきましては、ウエイトリフティング女子64kg級で飯田高校の中島選手、少林寺拳法弁論の部で金沢商業高校の細洞選手が優勝、また相撲で金沢市立工業高校の角田選手、ウエイトリフティング女子55kg級で金沢学院高校の可児選手、少林寺拳法の男子自由組演武で小松工業高校の日光選手、土本選手が準優勝したほか、記載しております計8種目で8位以内に入賞しました。

今後、北信越ブロックで開催され、本県でも4競技が行われる夏のインターハイや秋の三重国体など、本県の高校生の活躍を期待しますとともに、県高体連をはじめ関係機関との連携を一層深めまして、効率的・効果的な運営による運動部活動のより一層の充実に努めてまいります。

【質疑】

質疑なし

(徳田教育長)

以降の審議は非公開となるため、傍聴人の退席を促す。

議案第 11 号 令和 4 年度使用教科書の採択方針について

江尻教育次長兼学校指導課長が説明し、採択の結果、全会一致で原案のとおり可決された。

議案第 12 号 石川県公立学校教職員健康管理審査会委員の委嘱（任命）について

岡橋教職員課長が説明し、採択の結果、全会一致で原案のとおり可決された。

議案第 13 号 人事異動について

岡橋教職員課長が説明し、採択の結果、全会一致で原案のとおり可決された。

- ・閉会宣言

徳田教育長が閉会を告げる。